

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 【特集】 インターナショナルリニアコライダー
I L Cの建設候補地が北上山地に決定！
- 8 防災・防犯情報共有システムの運用を開始
- 10 奥州球児が大活躍 — 花巻東高校が甲子園ベスト4
- 11 水沢高校及川選手が全国優勝
小中学生も全国大会で活躍
- 12 平泉ナンバーの導入が決定
- 13 常盤小学校周辺へ「ゾーン30」を導入します
- 14 狂犬病予防集合注射を行います
住宅・土地統計調査を実施します
- 15 結 - ゆい - ～ 30 の地区振興会による協働のまちづくり実践事例～「水沢地区町内会連絡協議会」
- 16 2013 奥州の夏まつり グラフ
- 18 市の出来事から
- 20 まちの話題
- 22 つながれ 広がれ NPOの輪「前沢いきいきスポーツクラブ」
- 24 子そだて広場
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 25 消費生活相談Q&A
わが家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
「常盤小学校」
- 26 キラリ人輝く
夢トーク
- 27 クラブ紹介「岩谷堂高校
卓球部」
ぼんたのつぶやき
- 28 くらしの情報
- 32 奥州遺産「女石神社」(衣川区)

〈今月の表紙〉



水沢高校（高橋和夫校長・生徒 725 人）は、平成 28 年度までスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けており、生徒が積極的に科学の研究を行っています。

写真は、8 月 8 日に東京大学で開催された、プラズマ・核融合学会高校生シンポジウムのポスター発表の部で、優秀発表賞に輝いたグループの研究の様子。I L C 国内候補地が北上山地に決まり、研究活動にも一層熱が入ります。



力強く太鼓の音を響かせ、仲間と共に稽古に汗を流す

ザン・ザン・ザン……。いまだ暑さの残る稲瀬体育センタ―に、今夜も太鼓の音が響く。仲間と共に、稽古に精を出す沼田明洋さんの首筋には、大量の汗が流れる。

金津流石関獅子躍で後狂の役を担う明洋さんは、曾祖父が獅子躍の中立として活躍したと伝え聞いていた。高校3年のとき、地元で開催された県産業教育フェアで、仲間と共に鹿踊を披露した明洋さん。それがきっかけとなり、高校に同好会が設立された。現在の岩谷堂高校鹿踊部の歴史は、ここから始まった。

高校卒業後、明洋さんは地元敬老会で鹿踊を披露。これにより、活動休止していた石関獅子躍復活の機運が盛り上がった。平成13年1月、つい

に石関獅子躍は復活を遂げた。元来、寺社での供養や奉納のために踊られてきた獅子躍。地元の寺社で、毎年欠かさず躍りを披露する。そのほか、5月の「江刺甚句まつり」はもちろんのこと、11月の「稲瀬地区芸能まつり」、えさし藤原の郷での定期公演など、地元を中心に活動している。

石関獅子躍は、体を激しく動かすのが特徴。そのため、40代半ばには体力的に限界を感じるという。明洋さんは「あと15年は第一線で躍りたい」と意気込みながらも「獅子躍には魅力がある。若者もこの世界に飛び込んできてほしい」と後継者確保にも思いを巡らす。仲間とのつながりを大切にしながら、これからも獅子躍の魅力を伝え続ける。

※相伝者とは… 伝統芸能などを受け継いで伝える人のこと。金津流石関獅子躍は現在、9人が相伝者



魅せて伝える獅子躍 仲間が居てこそ続けられる

沼田明洋さん（33歳）
江刺区稲瀬字新田



ぬまた・あきひろ◎昭和54年江刺区稲瀬字新田生まれ。金津流石関獅子躍の相伝者。船橋生コン㈱に勤め品質管理業務に携わる。父、母、妹、弟、祖父、祖母の7人家族

●特集 インターナショナルリニアコライダー

ILCの建設候補地が 北上山地に決定！

国内の建設候補地が、東北の北上山地と九州の脊振山地の2カ所であった「インターナショナルリニアコライダー」（以下、ILC）。このたび、国内研究者組織は、国内候補地を北上山地に一本化することを公表しました。今回は、この決定を受け、皆さんの喜びの声などをお伝えします。

■問い合わせ先 本庁政策企画課 ILC推進室（内線415）

ILC計画を推進する国内研究者組織「ILC戦略会議」（議長・山下了東京大学准教授）などは8月23日、都内で記者会見を行い、国内2候補地の評価結果を公表。建設候補地を北上山地に一本化した。

ILC戦略会議は、東北の北上山地と九州の脊振山地の2カ所の候補地を科学的・学術的に評価するため、ことし

1月に「ILC立地評価会議」（共同議長・山本均東北大学大学院教授、川越清以九州大学大学院教授）を設置。同評価会議内に2つの専門委員会を設け、両候補地の地質・地形などの「技術評価」と中央研究所の立地や研究・生活環境などの「社会環境基盤評価」の2つの観点から、延べ数百時間にも及ぶ評価作業を進めてきました。

記者会見では、山本、川越両共同議長が評価結果を報告。「ILCの国内候補地として、北上サイトを最適と評価する」という結論に全会一致で至ったとし「北上サイトにおける中央キャンパスは、仙台・東京へのアクセス利便性を有し、研究・生活環境に優れる新幹線沿線の立地を強く推奨する」と発表しました。

両候補地について、技術的観点では、トンネルがダム湖や都市部の下を通ることが課題とされた脊振山地に比べ、北上山地は50ギガのトンネルの確保に許可や施工・運用上のリスク、工期・コストな

どで大きく優位であると評価。また、社会環境基盤の観点では、北上山地は中央キャンパスの拡張性、新幹線・幹線道路の利便性に富む一方、脊振山地の中央キャンパスの一つは大都市に近く、生活環境に高い利便性を持つとしながらも、両候補地とも立地に支障があるような大きなリスクはないと評価しました。

社会環境基盤の観点ではやや脊振山地が優れていたものの、技術的観点で北上山地が大きく優位であるとした同評価会議。北上山地をILCの国内候補地として「最適」と結論付けました。

ILCをめぐる主な動き	
1990年代	・研究者によるILC候補地の調査、検討開始
2009年	・「東北加速器基礎科学研究会」（現東北ILC推進協議会）発足 ・市文化会館（Zホール）で市内初のILCに関する講演会を開催
2010年	・国内候補地として北上山地と脊振山地の2カ所を選定 ・県と東北大学が共同で地質調査を開始
2012年	・「いわてILC加速器科学推進会議」発足 ・「市国際リニアコライダー推進連絡協議会」発足
2013年	・「市ILC推進室」設置 ・国内研究者による建設候補地の決定

ILCとは…

インターナショナルリニアコライダーの略称で、素粒子物理学の大規模研究施設のことをいう。全長31～50 kmの地下トンネルに加速器などを設置。トンネル内で電子と陽電子をそれぞれ加速し、中心部で正面衝突させる。これにより、宇宙の始まりとされるビッグバンの1兆分の1秒後の状態を再現するもの。このときに発生する素粒子などを観測することにより、宇宙の始まりや物質の起源などの謎に迫る。

建設候補地の決定を受けて —市長コメント

北上山地がILCの建設候補地として科学者の皆さまから評価され、選定されたことは、東日本大震災からの復興を目指している東北にとって

大きな朗報であり、候補地を抱える自治体の長として念願が叶い、非常に喜ばしく思っています。

ご承知のとおりILC計画は、本市出身の故椎名素夫先生が東北での実現を願うご尽力された国際科学プロジェクトであります。今回の決定は東北、そして、奥州市の将来を考える上で、まさに歴史的な出来事であり、ILC計画が実現に向けて大きく前進したこの瞬間に立ち会えた喜びを噛みしめています。

北上山地への誘致へ向けて先頭に立って誘導いただいた岩手県をはじめ、20年以上の長きにわたり地道な誘致活動

を支えていただいた多くの皆さま、また、経済界をはじめ、市民運動に参加いただいた多くの皆さまには、心から感謝とお礼を申し上げる次第です。ILC計画の実現には、政府がILC計画を国家プロジェクトに位置付け日本誘致を表明し、世界の関係国が日本での建設を認め国際プロジェクトに決定するという手続きが必要になります。

世界に尊敬される日本、人類の発展に貢献する日本を目指し、引き続きILCの東北誘致に向けてこれまで以上に関係者の皆さまと一丸となって取り組んでまいりますので、広くご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成25年8月23日
奥州市長 小沢 昌記

ILC建設候補地の北上山地（阿原山の頂を望む）